

チャペル ブックレット No.17

## メイク・ア・ウィッシュ～夢の応援団

原 順子



チャペル ブックレット No.17

# メイク・ア・ウィッシュ～夢の応援団

原 順子



名古屋学院大学 宗教部



はら じゅんこ  
原 順子

メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン名古屋支部

大阪府池田市で生まれ、父親の転勤や自身の学業・仕事の都合により、現在まで15回の転居を経験。

大阪音楽大学声楽学部声楽学科卒業。

卒業後、渡英。マンチェスターでヴォイストレーニングを受けながら、ハモンドダンススクールにてバレエ・ダンス全般を学び、スコットランド・オクセンフォード・インターナショナルサマースクールにて、発声法と歌曲を研修。帰国後、演歌のバックコーラス、ヤマハミュージック横浜専属プレイヤー（ファミリーコンサートで歌のお姉さん）として働く。

MAWJ事務局長大野寿子の記事を見て、1995年よりMAWJ東京本部でのボランティア活動に参加するようになりました。ボランティアからスタッフになり、2006年6月に東京本部より、名古屋支部に転勤し、現在、ウィークデイはMAWJのスタッフとして働き、土日と春秋の一時期は、ファミリーコンサートや音楽鑑賞教室のミュージカル、結婚式で歌う仕事をすると二足のわらじを履いている生活をしています。

### <信仰歴>

生まれた年のクリスマスに日本基督教団大阪東教会で幼児洗礼を受け、高校3年生のクリスマスに日本基督教団宇都宮教会で信仰告白をいたしました。

転居に伴いいくつかの教会でお世話になり、現在は日本基督教団愛知教会員です。

皆さんこんにちは。

今日は貴重な時間をありがとうございます。メイク・ア・ウィッシュについてお話をさせていただきたいと思います。

最初に、皆さんの夢をうかがいたいと思います。今の皆さんの夢はなんですか？ちょっと考えてください。将来の仕事の夢でもいいですし「お金持ちになりたい」「ここへ行きたい」とか、ちょっと思い描いてください。あともうひとつ聞きたいと思います。皆さん小さい子どもの頃、幼稚園や小学校の頃、どんな夢を持っていましたか？ちょっと思い出してみてください。どんな夢をお持ちでしたか？今の自分の夢、それから子どもの頃にどんな夢を持っていたのかなということをお話しながらこれからのお話を聞いて欲しいです。

メイク・ア・ウィッシュ、これは英語です。皆さんご存知だと思いますが「願い事をする」「夢を叶える」そういう意味です。メイク・ア・ウィッシュはアメリカで始まった活動です。アメリカでクリス君という白血病と戦う男の子が警察官になりたいという夢を持っていました。それを地元のアリゾナ州の警察官の方々が、独自で夢を叶えるお手伝いをしました。クリス君に合わせて子供用の警察官の制服を作り、実際にパトロールをする、そのようにして夢を叶えました。クリス君は残念ながらお星様になってしまいました。アリゾナ州の警察の方々、お母さんや周りの方たちが、クリス君のように病氣と闘っているために夢を叶える時間が足りない、そういう子どもたちがたくさんいるのではないかな？ということからボランティア団体になって、世界にどんどん広がっています。アメリカの中だけで80ぐらいの支部があります。世界ではどうかというと、現在では36カ国で活動されています。メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンもその一つです。

メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンは1992年に、スーザン・アルブライトという女性が、ご主人のお仕事の関係で沖縄に駐在していた時に活動が始まりました。スーザンがアメリカに帰り、東京に本部が移って現在では支部が8つあります。北から札幌、仙台、静岡、名古屋、北陸、関西、広島、福岡の8つの支部、本部と、9箇所で活動がされています。メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン、私たちのやっていることは1つです。難病と闘う子どもたち一人一人の夢を叶えるお手伝いを。一人一人の夢を叶える点で、今までの日本になかなかなかったコンセプトの活動です。サンタクロースがクリスマスにプレゼントを持っていく、ミッキーマウスが病院に遊びに行く、それからスポーツ選手が病院に慰問に行く、そういった活動は他にあります。しかし私たちは〇〇に会いたい

とか、〇〇に行きたいという一人一人の夢を叶えるお手伝いをしています。可能な限り資金、準備、労力などを提供しています。メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンは宗教や政治には関係ありません。もちろんクリスチャンの方が多く関わっていますし、お坊さんが協力してくださることもあります。政治や宗教の団体ではありません。一人一人、その一人一人の夢を叶えるということに全力を注いでいます。一人一人夢が叶って、生きる力を持って欲しい、病気と闘う勇気を持って欲しい、そういう願いを持って活動しています。

私たちが夢を叶えるお手伝いをしている子どもたち、認定された子どもたちをウィッシュチャイルドと呼んでいます。ウィッシュチャイルドの夢は一人一人違います、大きく5つに分けられます。

- ・行きたい
- ・会いたい
- ・なりたい
- ・したい
- ・欲しい

「ドコドコに行きたい」「ダレダレに会いたい」「ナニナニになりたい」「ナニナニがしたい」「ナニナニが欲しい」このように大きく分けると5つです。一番多いのがドコドコに行きたいという、旅行のウィッシュです。旅行のウィッシュで毎年多い夢、どこだと思いますか？病気と闘う子どもたち、どこに行きたいという夢が多いと思いますか？

メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンが始まってから今年でちょうど20周年になりますが、毎年断トツの一位は、東京ディズニーランドです。二位は時々変わりますが、こここのところ多いのが、沖縄のちゅら海水族館です。3位がアンパンマンミュージアムです。他にはピューロランド、USJ、あと沖縄の海で泳ぎたいなどです。

ドコドコに行きたいという旅行のウィッシュが一番多いのですが、旅行というのは夢ですか？と言われることがあります。旅行というのは夏休みや春休みに家族で行くものだから、それが夢になるというのはどうでしょうか？と言われる。でも病気と闘っている子どもたちにとっては大きな夢です。

ウィッシュチャイルドの日常の生活をちょっと想像してみてください。ウィッシュチャイルドはだいたい大学病院など大きい病院に入院しています。そのためお母さんはその病院に付き添うために、近くのアパートを借りる、ホテルに泊まる、親戚のお家に身を寄せる、そういう生活をしています。他にもファミリーハウスという施設があります。ファミリーハウスをご存知ですか？ファミリーハウスは残念ながら愛知県にはまだ少ないため、あまり耳にしたことがないと思います。東海地方では少ないかもしれませんが、マクドナルドには行ったことがあると思いますが、マクドナルドのハッピーセットを食べたことがありますか？ハッピーセットって玩具が付いているセットですが、あのハッピーセットが関係しています。マクドナルドハウスという施設がありますが、マクドナルドハウスは、実はファミリーハウスという施設です。ファミリーハウスは病院に入院している

人の家族のための施設です。ファミリーハウスは一日500円、1000円ぐらいの安く使える宿泊施設です。だいたい病院の近くににあります。今も名古屋大学付属病院の近くに計画があります。マクドナルドハウスというのはまだ全国に少ないですが、それでもどんどん出来ています。ハッピーセットを一つ食べるとその中から1円がマクドナルドハウスに寄付されます。それと、マクドナルドの募金箱の中身はマクドナルドハウスに寄付されます。ウィッシュチャイルドの日常の生活を考えていただくと、そういうふうにウィッシュチャイルドが大きい病院に入院しているので、お母さんはその傍にいます。そのためウィッシュチャイルドの兄弟は、お父さんが育てる、またはおじいちゃんおばあちゃんが育てています。これは本当にある話ですが、ウィッシュチャイルドが名古屋の病院に入院し、一人の兄弟は北海道のおじいちゃんおばあちゃんと暮らし、一人の兄弟は沖縄のおじいちゃんおばあちゃんと暮らし、お父さんは岐阜で一生懸命お仕事をしています。そうやって、二重、三重、四重生活をしているお子さんも多いです。だから子どもが病気になってから一度も家族旅行したことがありません。あるいは子どもが生まれてすぐに発病したため、一度も家族旅行したことがなく、買い物にも行ったことがない。そういうご家族がほとんどです。ちょっと経済的なことをお話しすると、白血病や脳腫瘍など小児のお子さんが病気になった時、医療費がタダになるといったことは皆さんご存知ですか？ウィッシュチャイルドと認定されたお子さんは医療費がだいたいタダです。でもお父さんが病院に通ってくるお金、お母さんがファミリーハウスに泊まるお金、安く使える施設ですが、それでもそういうお金に対しては、援助があるということは少ないです。行政によって、都市によって違いはありますが、そういった費用は出ません。アパートを借りてもお金は出ない。そういったところはなかなか厳しい状態にあります。

それから、ストレッチャーを皆さんご存知ですか？病院などで見たことあると思いますが、動くベッドというふうに考えていただいたらいいかと思います。例えばですね、飛行機にストレッチャーで乗る場合、飛行機のチケットは身障者手帳を持っていたら本人は半額になりますし、介助者一人も半額になります。しかしストレッチャーに乗っているお子さんが飛行機に乗る時、最低でもチケットが何枚必要だと思いますか？正解は、最低でも4枚必要です。飛行機の型によって5枚必要、6枚必要という場合もあります。飛行機に乗る場合もストレッチャーに乗っているとそれだけ金額もかかります。

次に新幹線の場合も考えてみたいと思います。新幹線皆さん利用されたことがあると思いますが、皆さん新幹線の11号車に多目的室という部屋があることをご存知ですか？あまり聞いたことはないと思います。東海道新幹線には今個室がないと思われていますが、実は11号車に多目的室という個室があります。

今度新幹線に乗った際にも多目的室が利用されていなかったら「見学させてください」と言うと、見せていただけます。その多目的室というのは車椅子を使う方や、赤ちゃんと一緒に乗っているお母さんが授乳できるようになど、そのような目的のために使われる部屋です。2枚チケットが必要で、2人入ることが出来ます。ウィッシュチャイルドはずっと病院の中に居て、無菌室の中にいるため

に、免疫力が下がっています。なるべく色々な人と接しないように、たくさんの人がいる空間に居ないようにするため、主治医の先生から新幹線に乗る場合は多目的室を予約してくださいと言われます。多目的室は予約がなかなか難しいです。私が新幹線に乗る時は携帯電話から予約をしてしまいます。皆さんも携帯電話やパソコンでパッパッと予約をされると思います。駅に行つてすぐ、空いていれば、指定席の予約ができます。新幹線は簡単に便利に乗ることができると思います。でも多目的室を予約しようとすると、大きい駅の駅長室に最低でも2回、足を運ばないといけません。ですから闘病生活を送っているご家族にとって、わざわざ大きい駅の駅長室まで2回も足を運ぶというのは難しいことです。そのため新幹線に乗ることは大変な苦勞です。ですからウィッシュチャイルドにとって、旅行は大きな大きな夢です。

さて、2番目「ダレダレに会いたい」の話です。これも多い夢です。好きなタレントさん、スポーツ選手に会いたい、そういう夢です。これも毎年断トツ1位の人があります。メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン始まって20周年になりますが、だいたい1位は決まっています。10周年の時、3位はウルトラマンさんでした。2位はその当時巨人軍にいた松井秀樹選手でした。1位は誰だと思えますか？ヒーローでもスポーツ選手でもタレントさんでも、誰か思い当たりますか？メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン始まって以来ずっと1位の地位を維持しているのは、ミッキーマウスでした。やはりディズニールランド、ディズニーというのは夢の国で、ミッキーマウスは断トツの人気です。ミッキーマウスは世界に1匹で、本当に子どもたちはミッキーマウスに会えると目が輝いて、すごく嬉しいんですね。だから元気な子どもたちが、ただ好きだから会いたいとか、タレントさんでもそうですけれども、可愛いから、格好いいから会いたいというよりも、何かパワーが欲しいという気持ちがあると思います。

それからスポーツ選手に会いたいという場合、例えば中学生、高校生の男の子なんかだと、自分が野球をやっていた、サッカーをやっていた。でも自分が病気になるとそれが全部出来なくなってしまいます。野球もサッカーもできなくなっちゃう。そうした時に、自分の好きな選手に自分を投影するんですね。だから面白い夢としては、例えば野球の選手で最近調子が良くない、成績が良くない選手がいたとします。自分が会いたいというよりも、自分が会ってその選手を励ましたい。自分のその好きな選手を励ましたい。そういう思いで会いたいという夢があります。ですから「ダレダレに会いたい」という夢はウィッシュチャイルドにとって、本当に心の支えです。「ダレダレに会いたい」これもたくさんある夢です。

それから「ナニナニになりたい」これは将来の夢ですが、病気と闘う子どもたちも自分の将来の夢を描きます。これは本当に年々減ってきています。実はこれは寂しいことです。私が小学校5、6年生の授業にお話に行った時に、将来の夢は何かな？将来どんな仕事に就きたいかな？と聞いたら、割とありませんでした。サッカー選手、野球選手という夢が全然出てこない学校もありました。それでは何になりたいの？と聞くと「公務員になりたい」と答える子がいることがあります。公務員と一言で言っても、警察官や学校の先生、消防士、色々ありますが、

何になりたいのかなという「役所で働く公務員」と言うわけです。役所で働く公務員さんのお仕事もすごく尊いお仕事だし、必要なお仕事です。でも、どうしてになりたいのかな？と聞くと「生活が安定するから」と元気よく答えてくれます。小学校5、6年生の子たちに生活が安定するって意味がわかるのかなと思うところもありますが、それだけ世の中が不安になり、日本の社会がそういうふうになってきているのかなと、ちょっと寂しい思いもします。同じようにウィッシュチャイルドもそれに比例して将来の職業の夢は減ってきています。それでも時々あるのが「自分が苦いお薬を飲んでから、甘いお薬を開発する薬剤師さんになりたい」「病気を治すドクターになりたい」「ナースになりたい」という夢があります。

お薬はすごく切実な願いです。皆さんが子どもの頃、風邪をひいて子ども用の風邪薬を飲んだことはありますか？子ども用の薬は甘くて飲みやすいと思ったことがあると思います。だからお薬飲むなんて簡単じゃない？と思うかもしれませんが、風邪薬は沢山の方がたちが必要としているため需要があります。白血病や脳腫瘍、そういった病気のお子さんは全国でもそんなに多くありません。だから白血病や脳腫瘍には子ども用のお薬がありません。今、一生懸命意識の高いお薬の会社の方がたちが、子どもでも飲みやすい白血病の薬を研究して開発しようとしています。でもまだ子どもたちが飲みやすいお薬はありません。だから市販されている風邪薬のように白血病と闘っている子どもたちが簡単にパッと飲める、というわけではないことを皆さん覚えておいていただきたらいいかと思います。

それで「薬剤師さんになりたい」「ドクターになりたい」その他には、毎年一人はいる、可愛い夢ですけれども「パパのお嫁さんになりたい」という可愛い夢もあります。

それから「ナニナニがしたい」という夢です。これも病院の中にいたら出来ないことです。「飛行機に乗りたい」「新幹線に乗りたい」「一輪車に乗りたい」「トランポリンに乗りたい」「イルカと遊びたい」それから、ほとんどのお子さんは食事制限をされています。お菓子を食べられない。お砂糖、糖分を取れないお子さんがほとんどです。だから「パティシエになりたい」というお子さんがいるんですが、よくよく聞いてみたら、パティシエになりたいというよりも「ケーキを1ホールお腹いっぱい食べたい」という夢の場合があります。それから「蟹をお腹いっぱい食べたい」という可愛い夢があります。そんなのちょっとお金を出せばできるじゃない？と思うかもしれませんが、食事制限をしている子どもたちにとっては食べるのが、もう大きな夢です。だから食べたいという夢も多いです。

行きたい、会いたい、なりたい、したいとお話してきましたが、もうひとつ「ナニナニが欲しい」という夢があります。物をプレゼントする夢です。物をプレゼントする夢、これも夢ですか？と言われますが、これも大きな夢です。何が欲しいと思いますか？お洋服が欲しいと思います？玩具だと思えますか？何だと思えますか？断トツの1位はパソコンです。1位がパソコン、2位がゲーム機です。「エー！？」と思われたかもしれませんが、この頃病院の中でも自分のパソコンを

使うことができます。何年か前はパソコン使えませんでした。病院で貸し出しもしていますが「最新型のパソコンが欲しい」という夢が多いです。ずっと病院の中にいると、世界は狭くなっていきます。だからパソコンで自分の世界を広げたいという夢があります。ただ高い物が欲しいというわけじゃなく、「パソコンを通してより緻密なイラストを描きたい」あるいは「リアルにゲームがしたい」「色々な画像を取り込みたい」そういう夢があるので「最新型のパソコンが欲しい」という夢が多いです。あと時々あるのは「ワンちゃんが欲しい」。病院の中に居て、動物に触っちゃいけないといわれているお子さんがほとんどです。動物はどんなにキレイにしている、いっぱいバイ菌を持っています。だから自分が飼っていたワンちゃんにも会えない、というお子さんがいます。自分のペットが欲しいと思っても、ペットは駄目だよって言われている。そういうお子さんたちがたまに外泊する時にしか会えなくても、「ワンちゃんが欲しい」とか、「ハムスターが欲しい」という夢をもちます。

行きたい、会いたい、したい、なりたい、欲しい、大きく分けると5つの様々な夢があります。これから夢のかなった子どもたちのことを、何人か紹介したいと思います。

これは『いちばん大切なもの』という、清水美緒ちゃんの「自分の作ったお話を本にしたい」その夢が形になったものです。美緒ちゃんは小学校4年生の時まで、運動会の時のかけっこで1番、2番をとるような、すごく運動が大好きな女の子でした。ところが、痣ができやすかったり、すごく疲れやすかったりしたため、お母さんが心配して病院に連れていったところ、白血病ですといわれました。そのため、そこから闘病生活が始まります。今まで通っていた小学校に行けなくなり、近くの養護学校に通うようになりました。小学校6年生の時の文化祭、美緒ちゃんは無菌室に入っていたため参加することができませんでした。無菌室、クリーンルームとも言いますが、皆さんご存知ですか？無菌室は読んで字のごとく菌のないお部屋のことです。骨髄移植などの場合、無菌室に入ります。菌のないお部屋に入ることは、部屋の外にももちろん出られません。その無菌室に入っていて白血病の治療のために骨髄移植をする手術をしました。大変な治療です。抗がん剤治療や放射線治療は、髪が抜けてしまう、物を食べてないのに吐き気する、顔が浮腫む、痩せてしまう、そんな副作用があります。そういう闘病生活を美緒ちゃんは送っていました。当然文化祭にも出られません。文化祭に出られないということを知った担任の先生が、「美緒ちゃんは絵を描いたり、文章を作ったりするのが上手だから台本を書いて」という依頼をしました。そして文化祭の台本を書くという方法で文化祭に参加しました。その台本を元に、クリスチャンの絵本作家の金斗鉾さんが、ボランティアで美緒ちゃんの作ったお話から文章を作ってください、それから、美緒ちゃんの描いたイラストを元に絵を描いてくださいました。そしてこういう絵本が出来上がりました。『一番大切なもの』美緒ちゃんはどういう想いで、自分のお話を絵本にしたいと思ったのでしょうか。それは、自分が、絵を上手に描けますよとか、文章を上手に書けますよ、ということをたくさんの人に知ってもらいたかったわけではありません。自分と同じように病氣

と闘っている子どもたち、そういう子どもたちを励ましたい。そういう想いで絵本を作りました。だからこの絵本ができた時に、全国のこども病院や大学病院の小児科に送りました。それで完全に美緒ちゃんの夢が叶ったことになりました。美緒ちゃんは残念ながらお星様になってしまったのですが、今でも2万部以上の本が売っています。この本の『一番大切なもの』のメッセージは「一人じゃないんだよ」という仲間の大切さを表しています。先ほど無菌室のことをお話ししましたが、無菌室は家族しか入れません。たとえ家族であったとしても、15歳以下のお子さんたちは入れません。美緒ちゃんは11歳12歳13歳の時に闘病生活を送っていました。美緒ちゃんには中学生から高校生になったお兄さんがいました。お兄さんは16歳になってから、無菌室に入ってお見舞いに行くことが出来ました。でも3歳年下の妹さん、いつも一緒に遊んでいた仲良しの妹さんは無菌室に入ることはできませんでした。だから病院にお見舞いに来て、お手紙を渡すことはできても、会うことはできませんでした。その中で仲間の大切さを感じて、このお話ができました。自分の友達や、いつも喧嘩したり遊んだりしていた兄弟に会えないということはすごく辛いことです。だいたい大学病院では、小児病棟に15歳以下のおさんは入れません。ある病院では、病院の小児病棟に、食堂のようなところがあって、そこと廊下、エレベーターホールのところがガラス張りになっています。そこはお掃除のおばさんが拭いても拭いても手垢、手の跡がつきます。どうしてだと思いますか？そこに手垢がどんどん付きます。子どもの手の跡が付くんです。どうしてかっていうと、兄弟はお見舞いに来ても会えないんです。だから小児病棟の食堂にいる兄弟にガラス越しでしか会うことができません。お話はできません。お話ができないから、一生懸命ガラス越しにトントントントんと手を叩くんです。子どもたちの手というのは汗ばんでいたりするので、すごく手垢がガラスに付いてしまいます。だけど、けっしてお掃除のおばさんたちも「こんなところ汚さないで」なんて言いません。そこでしか会話ができない、外と中から手を叩きあうことでしか会話が出来ない。病院の掃除のおばさんが「いいんだよ、汚してもいいんだよ」ってそういう思いで、ガラスを一日に何回も何回も拭いてくださっています。本当にお友達とか兄弟の存在は、普通に元気にしていたら感じないけれど、美緒ちゃんのような子どもたちは、仲間の大切さをすごく感じています。自分一人で病氣と闘っていると、自分一人かなと思っちゃいますが、そうじゃないよ、みんな闘っているよ、だから頑張ろう、それを伝えようという想いで、美緒ちゃんは絵本を書きました。全国に絵本を送る際、美緒ちゃんが描いたイラストにボランティアさんが色を塗ってくださった葉を入れようといった時にサラサラサラと書いてくれた詩があるので、ちょっとここで読んでみたいと思います。

「つらいのは君一人だけじゃないよ。

みんなと一緒にがんばっていこうよ。

手をつないで、さあ、みんな健康を育てよう」

これが、美緒ちゃんのメッセージです。美緒ちゃんの夢を叶えるために、たくさんの方たちが動いてくださいました。美緒ちゃんがお星様になる4日前に本が

出来上がりました。普通だったらもっともっと絵本の製作には時間がかかりますが、金斗鉦さんもお忙しいなかをぬって、絵本をつくってくださいました。印刷会社の方たちも他の仕事そっちのけで印刷をしてくださいました。そしてできあがりしました。それでボランティアさんや私たちも、とにかく全国に送らなきゃ、そうじゃないと美緒ちゃんの夢が叶わない、そういう思いで絵本を送る作業をしました。たくさんの方たちが力を尽くしてくださいました。でも、美緒ちゃんのこの夢、夢を叶えてくださったのは誰かっていうと、誰だと思えますか？美緒ちゃん本人なんですね。夢を叶えたのは美緒ちゃん本人です。美緒ちゃんの想いやパワーがたくさんの人たちの心を動かして、そして夢が叶った。本当にそうだと思うことを思います。

メイク・ア・ウィッシュのことを最近知っている人は知っていますが、10年ぐらい前はなかなか知名度がなく、「なんですかその団体は？怪しい団体じゃないですか？」と色々厳しいことも言われました。今でもそういうことがあります。心無い言葉を言われることもあります。でもたくさんの方たちの暖かい心を感じることができます。

例えば、この『はしれ江ノ電ひかりのなかへ』です。これは8年ぐらい前に24時間テレビのドラマにもなりました。メイク・ア・ウィッシュはメイク・ア・ドリームという名前で登場しました。トモヒロ君のお話です。江ノ電は鎌倉の方に走っている電車です。江ノ島の電鉄会社というのは決して大きい電鉄会社ではありません。トモヒロ君は江ノ電の沿線に住んでいて、将来は江ノ電の運転手になりたいという夢がありました。トモヒロ君は心臓病のお子さんです。ドラマでは夢の実現に協力してくださった江ノ電の社員の方をSMAPの草薙君が演じてくださって、和久井映見さんがお母さん役で、阿部寛さんがお父さん役で、小さい頃からの少年から中学生、高校生になる間のトモヒロ君の役をジャニーズのタレントさんが演じてくださっていました。和久井映見さんが演じてくださったお母さんは結婚した時から重い心臓病を患っていました。お子さんを生むときに、あなたの命も危ないですよと言われましたが、せっかく宿った命だからといって命がけの出産をしました。元気な赤ちゃんが生まれてよかったねと言っていました。お母さんはほとんどお家の中で過ごしました。トモヒロ君が江ノ電に乗ったのはお父さんと乗ったことしかありませんでした。小さい頃からトモヒロ君は大きくなったら江ノ電の運転手さんになってお母さんを乗せてあげたい。そういう夢がありました。残念ながらお母さんは大きくなる前に亡くなってしまいました。でもトモヒロ君の江ノ電の運転手になりたいという夢はずっと続きました。もうトモヒロ君に残された時間は非常に少ない、そう言われた時に、メイク・ア・ウィッシュにお申し込みをさせていただきました。私たちは江ノ電の電鉄会社の方にご相談をしました。そうしたら江ノ電の方は「社をあげて協力しましょう」と言って、もう毎日色々協力してくださいました。江ノ電の運転手になること、運転席の座席に座るとか、ちょっと動かすということだけでも、すごく大変な事です。鉄道のこと詳しい方はご存知でしょうけれども、鉄道規則は絶対に破れません。ですが引込み線のところだけだったら大丈夫でしょうという、鉄道規則の

合間をぬって、トモヒロ君は運転することが出来ました。もう随分昔の11月11日に夢が叶いました。その時、トモヒロ君は心臓病を患っていました。トモヒロ君の心臓はとても繊細になっていて、病院の外に出ることだけでも大変でした。雨が降ったら、湿気だとか気圧の変化があるので、雨が降ったらその日は夢の実現はストップ。その日に合わせて主治医の先生も体調を整えてくださっているけどもしも、雨が降ったらもう夢は実現しないかもしれない。だけど、沢山の方たちの思いが重なって、実現することができました。最初は江ノ電が動いている間、運転手さんの隣でずっと見学をしていました。車椅子に乗るのも難しかったのに、ずっと何年も立ったことがなかったのに、トモヒロ君はその日、自分で立って運転席に座ることもできました。走っている間ずっと、トモヒロ君に何かあっちゃいけないということで、救急車が併走していました。それから江ノ電の駅というのは無人駅が多く、駅員さんがずっと立っているといったことはありません。ですがトモヒロ君の夢の実現の時は全駅に駅員さんが敬礼して立ってくださって、ずっと見守ってくださいました。それは江ノ電が始まって以来の出来事だったそうです。トモヒロ君はお星様になってしまいましたが、江ノ電の方もトモヒロ君の夢を叶えたということで、今でも鉄道の日に子どもたちの夢を叶えようと、電車を走らせたりといったことはしませんが、運転席に乗ってもらったりだとか、そういうイベントをずっと続けていらっしゃるそうです。本当に素晴らしいと思うのは、江ノ電の方たちも暇で暇ではないわけじゃありません。お忙しい仕事の合間をぬって、仕事の終わった後、何回も毎日のようにミーティングをしてくださった。仕事が始まる前、仕事が終わってから、お休みの時は社に出てきて、そうやって自分たちの時間をつくって、夢のために協力をしてくださいました。そうやって、トモヒロ君の心が、沢山の大人たちの心を動かしました。

それからもう一つ『大輝くんのくじら』というお話があります。これも絵本になったり漫画になったりしました。年間を通して一番多い夢がディズニールランドに行きたいという夢です。ディズニールランドの近くに、シェラトンというホテルがあります。シェラトンは年に一回、タレントさんなど色んな方に社長になってもらう、一日社長を行っています。ウィッシュチャイルドに一日社長になってもらうかっていった時に、ダイキ君はディズニールランドに行きたいという夢のお手伝いをさせていただいたお子さんとして、シェラトンに泊まったことがあったということで一日社長になってもらいました。ダイキ君が一日社長になった時のビデオを観させていただいたことがあります。役員会議があり、重役の方たちが座っています。色んな大事な話を実際していましたが、最後に役員の方が、「社長、他に意見はありませんか？」と言った時に、ダイキ君が突拍子もなく「飛行機に乗った時にシェラトンが見えたけど、屋上は何もなくて寂しいから、クジラの絵を描いたらどうですか」と言ったんですね。「エー！」と思いました。大人の感覚だと、屋上にクジラの絵を描くって、なんなんだろうって思いますが、その時、その役員の方々が立派だなと思ったのは、「社長、それは今までにない意見でした。ぜひ実行しましょう。」とあって、本当に屋上に絵を描いてくださいました。

私も見たことがあります。屋上を見てくださいと、実際にクジラの絵があります。今度チャンスがあれば見ていただければと思います。最初はプロの方が描いてくださいましたが、雨風で色が剥げていきます。今はシェラトンのホテルマン、ホテルウーマンの方たちがお仕事の合間、昼休みやお仕事が終わった後にボランティアで色の塗り替えをしてくださっています。

名古屋のお子さんのことも一人お話をしてみたいと思います。

寝台特急、豪華列車と言われているトワイライトエクスプレスをご存知ですか？今は季節にしか走っていませんが、関西から北陸の方を通過して北海道に行く電車です。トワイライトエクスプレスができた時は、一番後ろの座席の2階側がすごく眺めが良くて、ドラマの中にもよく出てきたりしました。名古屋支部で担当したあるお子さんは鉄道マニアなウィッシュチャイルドで、トワイライトエクスプレスのスイートルームに泊まって北海道に行きたいという夢がありました。だけどトワイライトエクスプレスのスイートルームは一つしかありません。何人かに入れる部屋ですが一組しか入れません。とるのも大変で、抽選です。今でも大変ですが、その当時もすごく困難なことでした。そこでJRの方に相談しました。なんとか便宜を図ってもらえないだろうかとお願ひしました。これは本当に人気のもので、JRの社員であっても簡単には手に入らないし、厳正な抽選で乗っていただいています、ということでお金を出しても乗れないことがわかりました。飛行機のように名前や住所を聞くわけじゃないから、当選した人と交渉することも無理ですよということでした。メイク・ア・ウィッシュの活動をしてたくさん奇蹟をみてきましたが、奇蹟が起きました。トワイライトエクスプレスのスイートルームのチケットが当たったという50代の女性からJRにお手紙が届いたということでした。ご主人の定年退職記念に夫婦二人で乗りましょうと応募したら当たって嬉しくて、普通はそんなことしないと思いますが「私はトワイライトエクスプレスのスイートルームに当たりました。本当にありがとうございます。」というお礼の手紙をJRさんに書いたそうです。これはということで、その方にお願ひをしてみましょう。ウィッシュチャイルドがスイートルームにずっといることは無理でも、他のいい席の乗車券をメイク・ア・ウィッシュがプレゼントして、それでスイートルームの方に見学をさせてくださいとお願ひをしましょうということになりました。ウィッシュチャイルド、小学生の男の子でしたが、ウィッシュチャイルドの夢ということで、さっそくJRの方がお手紙を書きました。そしたらなんと、その方からお返事がきました。どういうお返事かというと、スイートルームのチケット、プレゼントで差し上げます。私はまた応募して当たればいいんです。ということでした。そう簡単にチケットが当たるわけではありません。でもまた当てればいからどうぞ使ってください。実は私にも小学生になる孫がいます。そのウィッシュチャイルドのために使っていただきたいので、プレゼントします。そういうふうに言っていただひいて、それでウィッシュチャイルドはトワイライトエクスプレスのスイートルームに乗ることができました。夢がかなって、本当にこれは奇蹟だと思いました。これもやはりウィッシュチャイルドの心があって、そのパワーがあって、沢山の方たちの心が動いたんだなって思

います。この話には余談もあって、協力してくださったJRの方、病気で亡くなられましたが、亡くなられる前に、奥様におっしゃったそうです。ずっとJRに勤めてきて、色んな出来事があったけれども、ウィッシュチャイルドのお手伝ひをさせていただいたことが一番印象に残る、とおっしゃったということがあります。だからウィッシュチャイルドの夢はたくさんの方たちの心を動かしたっていうふうに思います。

たくさんウィッシュチャイルドの夢をご紹介させていただきました。

ここで、実際にウィッシュチャイルドのことが載っているパンフレットとニュースフラッシュをご紹介します。このパンフレットにはメイク・ア・ウィッシュの成り立ちなどが書かれています。ニュースフラッシュの2012年度版には2011年に夢の叶った子どもたちの夢が載っています。たくさん夢の子どもたちの写真があります。まずみなさんそれを手にとって見ていただければと思います。今私がお話させていただいた、行きたい、見たい、会いたい、なりたい、欲しい、5つの夢、たくさん夢があります。それにいろんな子どもたちの写真があります。パンフレットにはお話したクリス君のことも書かれています。最初に夢の叶った子どもたちのご報告、それから私たちの団体はボランティア団体なので、全て資金は個人の方や企業からのご寄付で成り立っていますから、こういう方々から活動資金援助していただひいていますという報告、こんなイベントをしていますという報告が載っています。それから最後のページにはメイク・ア・ウィッシュ・ジャパンのオリジナルグッズが載っています。これはウィッシュチャイルドの絵をグッズにしたりして、売らせていただひいて、この収益も夢の実現のために使っています。

色んな学校や企業、色んなところでこのパンフレットとニュースフラッシュをお配りしています。そんな時、このニュースフラッシュを付き返される時があります。「病氣と闘っている子どもたち可哀そうで見られないからいらわないわ」とか「病氣になっている子どもたちはパワーがない。氣の薄い子どもたちだからだから私が頂いたら私の氣がとられちゃうからいらわないわ」といって突き返されます。そんな時、私は自信をもってお渡ししています。これは病氣と闘いながらも明るく強く生きている子どもたちのパワフルな印刷物です。ですからどうぞ皆さん手にとってご覧ください。氣がとられるなんてことはないです。エネルギーを感じると思ひます。そう言うとお配りしています。色んなことを言われ、突き返されながらも配っているうちに、嬉しい言葉を頂きます。「私このニュースフラッシュいらないうって言ったけど、オリジナルグッズを買ったら、一つのグッズを買ったっていうだけでも、私は夢の応援団になったっていう氣になって、次のニュースフラッシュが出るのが楽しみになったのよ」って、そういうふうに言われたことがあります。それから、「私自身の氣がとられるからこの印刷物はいらないうって言った方たちが、「私は自分の氣が弱くなった時にこのニュースフラッシュを見てパワーを頂いた。元氣になったのよ。励まされたのよ」そんなふうに言っていただひいたこともあります。

ウィッシュチャイルドの輝くような笑顔は、確かにちょっと顔が腫れていたり

だとか、引き攣っていたりするような写真もありますが、自分の生きている意味をわかって、一生懸命生きている子どもたちの笑顔です。そんなパワーを感じていただきたい。ちょっと心が弱くなった時にも、そんなことを感じながらこのニュースフラッシュをみていただければと思います。

ウィッシュチャイルドは多目的室をとるのも大変なエネルギーが必要ですが、兄弟とも離れているし、お友達とも会えませんよとか、そういった現状もお話しましたが、今日ここに来たのは、けっしてウィッシュチャイルドは可哀そうな子どもたちだから応援してあげてくださいとか、そんな思いで来たわけではありません。ウィッシュチャイルドっていうのは本当に、辛い、悲しい、痛い、厳しい思いをしている子どもたちだけれど、その中でも本当に明るく、パワーを持って生きている。そんな子どもたちを感じて欲しい。そして、皆さんお一人お一人が夢を叶えて欲しい、そんな思いでやってきました。皆さんの顔を見たら、若いし、色んな夢もたくさんあるかと思うし、幸せいっぱい顔をしているし、本当に素晴らしいっていうふうに思います。でも今までの自分の人生を振り返ってみてください。今までの人生の中で、子どもの頃の夢がいくつかないましたか。自分が今希望していることが全部満足していますか。満足してないことはありますか。うまくいかない、勉強したのになかなか成績が上がらない、うまくならない、事故にあったことがあるとか、また大病をしたことがありますか。どうして自分の人生はうまくいかないだろう。どうしてこんな親に生まれてきたんだろうとか。うまくいかないってことありますか。

逆に全然うまくいかないことがない、もう全てうまくいっているということはありませんか。うまくいっている方はもしかすると大変かもしれない。これからの人生、就職のこと、家族の色々なこと、家庭をもってお子さんができてとか色々なことがあるかもしれないですね。こんな就職をしなければとか、こんな結婚をしなければってことがもしかしたらあるかもしれません。

実は私はクリスチャンです。ちょっと自分自身のこともお話ししたいと思います。私はクリスチャンの家庭で育って、クリスチャンとして生きてきました。あんまり苦労もしないし、頑張り屋さんでもなかったし、大体努力もしないのに全てうまくいってました。受験がうまくいかなかったとか色々挫折はありましたが、そんなに苦労もありませんでした。本当に私は運がいいなと思います。そんなふうに育ってきましたが、若い皆さんの前で話すべきことじゃないかもしれませんが、私今は独身ですけども、実は結婚していたことがありました。私は音楽の仕事をしています。子どもの頃から音楽が好きで、一生音楽の仕事なんらかの形で続けていければいいなっていう夢がありました。自分が大きくなりたいとか、すごくお金持ちになりたいとか、あんまりそういう野心はありませんでした。それから漠然と、結婚してお母さんになりたいという夢がありました。それで結婚しました。普通に子どもが産まれるかな、というようにのん気に生きてきました。ところが、なぜか神さまは私に子どもを授けてくださいませんでした。子どもができないってことがあって、色々悩んで、苦労しました。色々あって夫婦の絆も崩れてしまいました。そこからお別れをして一人になってしまいました。

今は一人で暮らしていて、すごく惨めな人生だと思いますが、よくそんなに楽しそうに生活しているねとか周りの人に言われます。結婚して子どもができなくてうつ病になったり病気になったり、悩んだり自殺を計ったりって方もいらっしゃいます。だけれどもその時に、もうこんな人生は惨めだからやめてしまおうとか、人生どうでもいいやってそういうふうにするような気持ちが出てきた時、ウィッシュチャイルドのことを思うと、かけがえのない人生かけがえのない命が与えられている、そういう大切なことに気付かせてくれるのはウィッシュチャイルドです。

ウィッシュチャイルドのことを思い描いてみてください。ウィッシュチャイルド、誰一人として病気になりたくてなった子はいません。よく「お母さんの心掛けが悪いんだろう」「祟りだろう」「先祖供養が悪いんだ」とか、そんなことを未だに言われることがあります。でもけっしてそうではありません。ウィッシュチャイルドの病気も神様がお与えになったことです。どうしてだろうかと思います。けっしてお母さんのお腹の中にいる時にお母さんがいいかげんなことをしたからウィッシュチャイルドが白血病になったとか、そういったわけではありません。遺伝的なものがあって、進行性の筋ジストロフィーになったお子さんたちもいらっしゃいます。ウィッシュチャイルドはそんな苦しい中でも、夢を持って生きています。やはりすごく不安だと思います。将来に対しての恐怖感を持ちながら、それでも夢を持って生きています。だから皆さん、生きている限り、命のある限り夢をもって生きてください、ワクワク生きている命を輝かせてください。生きている限りです。

ですから皆さん、色々夢をもって生きていけるとと思います。不安な世の中だし、こういう不安定な世の中ですけど、こういう不安定な世の中だからこそ、なおさら夢を持って生きていきたい。そういう思いを持って生きて欲しいなって、そういう思いを知って欲しいと思ってやってきました。だから、何か辛いなってことが今はまだないかもしれませんが、将来就職したり家庭をもったら色々なことに躓くことがあるかもしれませんが、そんな時にウィッシュチャイルドのパワーを感じて欲しい、思い出して欲しいと思います。

ウィッシュチャイルドは、闘病生活の中でも自分が生きている意味、周りの方たちに支えられている、愛によって生きているということを感じています。そんなウィッシュチャイルドの詩を読んで終わりにしたいと思います。

メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンの“ビーズストラップの鈴”というストラップに詩が付けられています。このウィッシュチャイルド、ヨシ君っていう男の子、この子も残念ながらお星様になってしまいました。けっしてみんながお星様になるわけではありません。元気になって、自分の夢を叶えて、結婚してお子さんを産んでいるウィッシュチャイルドもいます。ですけども、このヨシ君は残念ながらお星様になってしまいました。

ヨシ君は闘病生活の中でたくさんの詩をつくりました。詩をつくって、その詩にビーズストラップをつけて、メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンのオリジナルグッズとして売らせていただいています。「ビーズと鈴」という詩です。

これはヨシ君が、機嫌がいいとか、気が向いたからといった時につくった詩ではありません。そうではなく、闘病生活の最中、自分が苦しい時に周りの方たちに支えられている、そのことを感じて創った詩です。

#### ビーズと鈴

「ぼくは今ビーズにこっている  
いろいろな色のビーズをつないでいる  
丸く丸く作っている  
その中にすずを入れてみた  
すずはぼく  
まわりのビーズは  
家族、友達・・・  
先生、かんごふさん・・・  
いつもぼくを守ってくれている  
いつかぼくもビーズになる」

2012年11月13日(火) 名古屋学院大学宗教講演会

## メイク・ア・ウィッシュ～夢の応援団

原 順子

チャペルブックレット No.16

---

2013年5月1日発行

編集・発行 名古屋学院大学 宗教部  
〒456-8612  
名古屋市熱田区熱田西町1番25号  
TEL 052-678-4096

印 刷 佐川印刷株式会社